

今後十年以内に消滅する可  
立場である。ただしここには、  
コンパクトシティ推進とへ  
能性のある限界集落。人口減  
地域伝統文化の継承の問題と  
少時代のなか、市街地へ集住  
居住権の問題が存在する。  
させるコンパクトシティを推  
他方、へき地の限界集落存  
進させるべきか、それとも集  
続の考え方は、地域社会の歴  
落を存続させるべきか。消滅  
史、伝統文化、神社、そこに  
か存続か。地域によつて、あ  
住む人々の権利を重視する。  
るいは判断する人の立場によ  
どんなに時代が変わっても、  
つて、難しい選択となる。  
へき地には市場原理だけでは  
集落の統廃合について、反  
対派が大勢を占めるなか、少  
数だが賛成派もいた。「もとも  
とは人間が開発した土地だか  
ら、集落が消滅すれば、以前  
の自然状態に戻るだけ」とい  
うのがその理由であった。

### 消滅か存続か

コンパクトシティとは、行  
説明しきれない郷愁がある。  
政の財政状況や経済効率性を  
郷愁は市場競争する人々の精  
重視して、へき地の住民に市  
神や価値観を根底で支え、生  
街地に移り住んでもらうとい  
きている証しや働く意味を確  
う概念である。既存の地域開  
認させる。市街地の病院から  
発が人口増加を前提に推進さ  
遠い集落には、自家消費の野  
れてきたことを踏まえ、人口  
菜を作りながら、自立した独  
減少時代にはこれと反対の発  
居高齢者が暮らしている。た  
想で、コンパクトな地域社会  
だしここには、費用対効果の  
壁が立ちはだかっている。  
づくりをしていくべきという  
いく。厳しい現実である。